

本側は山元教授の挨拶に始まり、すぐに具体的な問題点の検討に入った。検討を進めるにつれ、日本側が現地をまだ見ていないこと、お互いに相手側の事情を知悉している訳ではないことなどに起因する認識の差異が浮き彫りになってきた。すぐに調整の出来ること、現地を見てから再度検討すべきこと、今回の訪中では解決できそうにないことなどが次々現れ、宿題が溜って行った。

3泊4日の現地調査の後、再び同じ所で検討会がもたれた。顔ぶれは第1回目と同じである。日本側は現地調査で得られた印象を述べ、測定地点や測定高度の選定について当初の計画を見直す必要のあることを強調した。検討会の合間には、隣の砂漠研にある風洞を見学して、風速計の検定に使用することの可能性を検討したり、既に今回のプロジェクト用に作られていた20mの塔を見て、日本側の予定している測器の取り付け方法を考えたり、大気研の計算機を見せて貰ったり大変に多忙な日々を過ごし、当初予定されていた市内見学をキャンセルしてまで頑張ったが、それでも時間が足りず、総括的な問題と、具体的な問題とを会場を別にして並列的に討議するなどして何とか日程をこなしたが、最終日の論議はなんと深更23時まで及んだ。

## 5. おわりに

大急ぎの調査であり検討会であったが、現地を見、現地の人々と顔を突き合わせ論議したことは多くの点でよかったと思う。今回の調査行を通して、中国側は何がなんでも日本を巻き込んだPBLの観測をやろうとする熱意がそここに感じられた。中国側としては、このプロジェクトを踏台として、国内の境界層研究の飛躍的發展を狙っているようである。その意味からも日本側の積極的な協力が期待されている。

中国科学院の王曉鳴氏、蘭州大気物理研究所の高由禧、郭昌明及び沈志宝の各教授に種々お世話になった。記して謝意を表したい。またこの調査に際しては日本学術振興会の日中人物交流計画の援助を受けた。

## 引用文献

Joint Study Group of Chinese Climate Research Committee and Japanese National Committee for WCRP. 1988: The First Study Conference on Sino-Japanese Cooperational Program on the Atmospherer-Land Surface Processes Experiments (HEIFE), HEIFE Report No. 1.

## 講演企画委員会からのお知らせ——「スペシャル・セッション」のテーマ募集

5月号(311ページ)でご案内した通り、来たる秋季大会(10月26~28日、仙台)で「スペシャル・セッション」が試行されます。講演企画委員会では、共通のテーマに興味を持つ研究者が分野の違いを越えて交流できる場として、この制度を定着させていきたいと考えています。つきましては、来年の春季大会(東京)で呼びかけ人となってスペシャル・セッションを開いて下さる方を、下記の要領で募集します。テーマや申込総数によっては講演企画委員会で調整をする場合もあり得ますので、ご了承下さい。

- 記入事項: 1. セッションのテーマ  
2. 趣旨説明(400字程度)

### 3. 呼びかけ人およびその連絡先

以上は春季大会告示の際に「天気」に掲載されます。

申込先: 〒305 茨城県つくば市長峰 1-1  
気象研究所 予報研究部内  
講演企画委員会(藤部文昭)

申込期限: 昭和63年11月15日(火)必着

なお、スペシャル・セッションの趣旨については、7月号455ページもごらんください。またスペシャル・セッション等に対するご意見・ご要望がありましたら、随時講演企画委員会(上記宛て先)へお寄せ下さい。